

## 「利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する関係住民の意見聴取

平成25年 2月26日（火）13:20～13:35

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：公述人22

はじめまして。市川市に住んでおります■■■と申します。ずっと長らく、長らくじゃないんですけどスーパー堤防の關係の建設反対運動に関わっている關係で、ちょっとスーパー堤防の問題についても今回は中心にやりたいと思います。スーパー堤防という名前は大変すばらしいですけども、実態なんですけども、まずはこの川のところなんですけれども、川に対して、このぐらいの大きさしかない。こういう小さなものがいわゆる完成されてもほとんど堤防としての体を為していない。意外とこれは世間に知られていませんけども、これでどうやって治水が出来るのかっていうのが、まず一番最初の大きな疑問で、これから疑問を持ちました。それから、全然繋がってないんですけども、繋がってない時の堤防は役に立つわけがないんですが、それでも江戸川区の場合なんかは避難場所に、こう使えるというんですけども、同じような場所を足立区の場合には危ないからそこに逃げてはいけないというような形ですね。江戸川区でも実際に地震の時には、あそこのあの臨海部のところの少しスーパー堤防事業のところがあるんですけど、逃げるなという。そういう点で、使い道、繋がってないところの使い道でも、まあ怪しいもんだということです。それから、これは私の家の近くにある市川南のスーパー堤防って書いていますけども、ここにありますように、普通、スーパー堤防ってこういう形で想定よりも横幅、上から見たら、広いというのが特徴なんですけども、実際には、こう部分的に、僕はスーパー堤防の細切れでスーパー困っているんですけども、実際問題はここの部分がいくら越流は強くなっても、これ実際にですけど、これがスーパー堤防の裏法面です。これが既存の裏法面なんですけども、こちらに流れるわけですね。すべて横に行ってしまう。ですから、むしろこの辺の住民の方が被害を受けてしまう。ここは安泰ですけども、越流に強いという性能も発揮されない。実際に市川市のハザードマップでもこのところが水が流れると示されています。それから、というわけで、結局、国交省の方がいらっしゃると思うんですけども、眺めが良いとか、こういうようなほとんど本質的でないメリットしか上げられてないっていうのが実態だと思います。これはもう皆さんご存じだと思うんですけども、国交省は5.8%といたんですけども、会計検査院は1.1%。なぜそうなったかというのは、簡単に言えばまともなスーパー堤防と言えるものが少なかったということで、絞ったんですけども、まともな堤防、ようするに断面の形が、いわゆるスーパー堤防の形をしていないということで切られてたんですけども、私から言わせればもっとひどい状態であると。まず、スーパー堤防の進捗率が上がらない理由なんですけども、こうやってずっと、荒川や江戸川やいろいろやったんですけども、この色塗ってあるのが国土交通省の単独事業です。たいていの場合は幅が全然狭いです、50mとか。しかも、結局何かっていうと、ほとんど残土の処理に使ったとか、まあ、そういうような形でほとんど関係ないような、あれですね。他のところを見ると、すべていわゆるまちづくりと称するハコモノを造るとか、いろんなスポーツ公園とか、いろんな形で必ずこのまちづくりと一体にならないです、これ。ですから、これは津ノ宮なんですけども、周りがずっと田んぼでいくらでもスーパー堤防が造れそうなところは造らないで、そういうまちづくりとなったところしかやらないのが、実は進捗率がなかなか上がらない理由であるというふうに考えています。それからこの実態についてですけども、これなんか小台のいわゆるスーパー堤防。この周り

が全部緩斜面どころか、トンネルがあったり、垂直な面であったり。しかも隅田川の方には裏法面が途中で切れて、まあ、突っ込んでしまったような状態ですね。という形で、川と川の間にはスーパー堤防があって、しかもその周りが全部、ほとんどが垂直である。こんなんでマンションの土台としか見えないものがスーパー堤防と称されている。それから、こういう、まちづくりの典型ですけども、このとなりにある、これ小台一丁目のスーパー堤防というものですけども、この場所で舎人線が新しく出来ると新駅の開発にしたがっていろいろな工場跡とかそういうのを使って、こういうような一大ショッピングセンターやマンションが出来上がる。再開発優先であって、何でここにスーパー堤防が必要かというのが理解できないという感じです。それからこれですけども、スーパー堤防は例えば江戸川とこう分かれるような部分、あたりでは、強化堤防というのを考えていらっしゃるみたいなんですけど、そこでは一枚法面になっています。スーパー堤防はご存じの通り段ですね。小段がいっぱいあるんですけども。まあ、そういうわけで1:30がいつの間にか今度は1:7になってしまって、いろいろとこういうのはこういって上げるとかあるんでしょうけども、あるいは遮蔽するとか、そういうのでスーパー堤防と同じ課題、つまり越流に強い、越水に強い、それから浸透に強い、それから地震に強い、この3点、実は全く共通で、しかも住民を退かして、こうやって拡幅するという点でも共通なのに、こういうような形で、この根拠も実際にこの出前講座に行ったりして聞いたんですけども、特に理論的な根拠はないようで、そういう点でも、わざわざ、これ、人を退かしてやるほどのことがあるのかどうか、であります。これは、このときに、この図を見るのですけれども、漏水というか、ここんとこでびっくりしたんですけど、噴砂、地震の時に起こるような、地震でもないのに噴砂が起きると。そこに、ちょっときょうは論文の名前を忘れましたが、国交省のだれかが書いた論文とかがこれです。その図で、その断面図ですけども、いわゆる堤防の中から出てきたものではなくて、その下の地盤から出てきているようなやつで、それで砂が噴き吹き上がってきているんですね。それで、その断面を見てみますと、ここの部分なんですけど、その論文ではこれロームとなっています。で、この形なんですけども、ここがこういうふうに凹んでいるというのが非常に気になりました。これは、ここの部分なんです。ちょっとなかなかきれいな図が得られなかったんですけども。ここに旧河道があります。この旧河道の延長上に続くんですね。その部分で来ているんですけど、ここのところをたぶんこういう形で堤防を埋めたんで、そのロームのようなもので埋め立ててしまった。で、そういうな、結局行き場を失わせるという形ではいるんですけども、そういう形で、とすると、ここで拡幅しても旧河道の延長がありますから、こういうな形でこっち側にもっと避けて出てくる可能性も十分あります。というわけで、しかも、この論文には旧河道というのはほとんど言葉として出てこない。こういうふうに川はいろいろ昔の流れ、流域があるんですけども、そういうものをきちんと見ていないで、ただ、批判的には変ではないかという疑いを持ちました。これは、平井七丁目のところなんですけども。これは国がこういうような旧河道をまたぐところは堤防が弱いんだということを自ら言っているわけです。ところが実際ここに平井七丁目のスーパー堤防がありますけども、これでわかりますように、これが旧河道で、これが旧中川です。完全にこれはもう流れが追ってきます。ここが一番、既に、一番堤防が脆弱になるところなんですけど、ここは全くなにもしないで、もともとここに台地みたいな状態で安全だった一番強い部分に、しかもここにマンションがありますけど、これを避けて、こんなところだけで。しかもここは財務省か何かのやつで、こうやって裏法面が上げられる余地があるにも関わらず、ここは突然に裏法面が垂直の崖になってしまって、ここの部分だけやっている。どうみても、これはスーパー堤防を治水のために造っているとは考えられないという感じです。実際に国交省の規格でも、時間がないから端折りますけども、旧河道より奥にいるところでは、この前の震災でいろんなところで液状化が起きたり、壊れたりしているということになります。これは川口地区

のスーパー堤防なんですけども、ここのところが旧堤防です。これは新堤防で、なんと河川敷を、狭める形で拡げているんですね。もう、ご専門の方もいらっしゃると思うんですけど、河川敷というのは単純に面積を拡げて、そして水位を下げるだけじゃなくて、非常に浅い流れがその上を通ることによって、流体ですから摩擦が浅いと非常に効くわけです。そういう点で、河川敷というのはこの堤防を守る上で非常に重要な役割です。こちらが荒川なんですけども、こちら側では江戸川区の方ではほとんどスーパー堤防をまともに造ろうとしていないですね、江戸川区なんかは。こちら辺、ちょうどここがいま最後の場所なんですけども、こっち側でしかもゼロメートルじゃないところに造ろうとしている。見れば分かるように、荒川や中川の方がはるかに川幅が広い。そして、しかも浅いんですね。非常にすぐに堤防の天端のところまで届いてしまいます。こちらは十分にあって、これだけ200mぐらいの河川敷が。こういうところで、先ほどの周りのあれもそうですけども、この川のそばの方にも、もっといろんな要素があるはずですね。あるいは、洪水時の流速分布とかそういうものがあって、どこにどのような護岸をし、どのような堤防が必要かという、そういうようなローカルなデータをきちんと検討した上で造っているんだろうかとやはり疑問を持っています。それから次ですけども、今まで堤防の上にもものを建てるなんてことは許されなかったです。それはあたり前の話で、堤防というのはいくらでも、平野ですから軟弱地盤の上にありますから、重たいものが乗ればいくらでもへっこんで、いくらでも壊れる。あるいは地震でも壊れる。あるいは洪水で壊れる。しょっちゅう壊れているものを直して使ってきたんですね。スーパー堤防になるとこういう具合に、こういうふうに支持杭を建てるもんですから、実際にこの部分はへこんでも良いだろうと思うんですけど、実際にはこう抜き上がり現象が起きて、地震の時にここは剥き出しになるんだと思います。これは清新町でスーパー堤防をモデル的に作ったんですけども、ここで実際に台地状になっているにも関わらず液状化が起きている、こういうような家が、支持杭のない家が傾いてしまった。こういう具合に盛り土部分に。いま最後にやっているところは、実際に支持杭のない建物を前提として開発されてきて、それで、いくらこの部分が丈夫であってもこの盛り土自身の問題が何にも検討されていないという形で。この状態で果たして民有地にした時にこれがへこんだりとか、あるいはいろんなことが起きた時に今までとは違って民有地をいろいろといじらなきゃいけない。点検もしづらだろうし、実際にそれでいろいろな工事をしなきゃならないってことが起きた時にどうしようもない。こんなことでいいんだろうかというのがあるわけです。こういう形でちょっと時間がないので、えっと、もうすぐですね。こういうわけで住民の方にも実際に対岸が、普通はこういうような傾斜地を階段状にして造成地を造るんですけど、スーパー堤防の場合は元々平らだったところを階段状にして、非常に、今までと勝手が違うんだよと。いろんな問題が起こるんだと。特に擁壁の問題だとかそういうことなんかも出て来るというわけですね。こういうわけで、スーパー堤防というものが果たしてほんとうに治水に役に立つのか、それからさっき言ったように、スーパー堤防は繋がってれば確かにそうかもしれないけど。それから、越流するということなんですけども、ここを流れるわけですね。民家の中を、しかも避難場所ですらうっていうけど、民有地の中に避難場所を造る。まあ、そういうことで。やっぱりその中でこれから、長い、それこそ何十年、何百年とあると。というわけで、そして、もう最後にしますけど、一番のスーパー堤防の問題というのは、そこにいる住民を退かし、歴史的な川を壊しますけども、それも全部退かして作らなければいけない。それだけの犠牲を払うだけの価値があるのかということ。実際問題見てみると、どう見てもハコづくりで国がお金を出して土台を造り、それをいろいろと利用する人たちに使われていて、ほんとうの治水のために使われてないのが姿なのではないか。こういうものを税金の無駄遣いと言わなくて何なんだと。もし、そんなお金で、しかも皆さんご存じのとおり、スーパー堤防はものすごいお金が掛かります。そんなお金があるんだったら、

もっともっと安上がりの堤防の形、きちんと堤防をやるべきであるし、それから日本は大変な震災を迎えて、また原子力発電所が壊れまして、大変な問題となっていますね。そこらへんがある。しかも、日本の財政は皆さんご存じのとおり、半分は借金でやってきて、それをまた拡大して、安倍さんは。借金を重ねて、公共事業に、しかも公共事業の実態はこんなもんじゃないかと、ほんとうに情けない国に成り下がっていると僕は思います。というわけで、こういうふうに見ていただきたい。実際に国民は知りません。ですから、僕が訪れた方にこれがスーパー堤防だよと言うとほんとうにびっくりして、これがですかと。その前に、どこがスーパー堤防なんですかといいます。それが一番最初に出たようなほんとうに点にしかない、そういうスーパー堤防であるということなんです。ぜひ、こういうような国民をだますような公共事業はやめていただきたいということです。以上で終わります。ありがとうございました。

以上